



学校法人  
鎌倉女子大学

## 磯部 <sup>とし</sup> 俣 先生の思い出

### — 「遙かな友に」 誕生70年記念によせて

鎌倉二階堂に住む方が早稲田大学グリークラブOB会新聞「稲グリ新聞」（2021年5月6日発行）を送って下さいました。その一面トップの大きな見出しに「『遙かな友に』誕生70年」とあって、とっても懐かしい温かい思い出に包まれました。

その記事を少しご紹介しましょう。「『遙かな友に』は1951年夏、ワセグリが合宿していた神奈川県津久井郡青根村（現在相模原市）の宿舎で、磯部先生が部員の要望を受けて即興で作曲し、パートリーダー4人によって初演されました。以来、この曲はワセグリの『ソウル・ミュージック』となり、今では世界中で愛唱されています」。作詞・作曲された青根村の道志川のほとりには、歌碑が建てられています。

静かな夜ふけに いつもいつも  
想い出すのは おまえのこと  
おやすみやすらかに たどれ夢路  
おやすみ楽しく こよいもまた

明るい星の夜は 遙かな空に  
想い出すのは おまえのこと  
おやすみやすらかに たどれ夢路  
おやすみ楽しく こよいもまた

さびしい雪の夜は いろりのはたで  
想い出すのは おまえのこと  
おやすみやすらかに たどれ夢路  
おやすみ楽しく こよいもまた

嬉しい時も悲しい時も、どんな気持ちの時にも、春夏秋冬、口ずさみたくなる、なんて素敵な歌なのでしょう。歌詞の中に出てくる「おまえ」とは、この青根村の合宿に参加することが出来なかった仲間のことなのだそうです。唄う人の心情によって誰とでも置き換えることの出来る、心のこもった人称代名詞だと思います。

学長も、「遙かな友に」をよく唄った時代があったそうで、友人の結婚式に、何人かの友達と自宅で練習し、この歌を合唱したことがあったとっておりました。ドイツ語の上手な学長の話では、ドイツ語には二人称の代名詞に、他人行儀な敬称の二人称と、家族や仲間、恋人や神様との間に用いる親称の二人称があるそうですが、親称の二人称を敢えて日本語に置き換えると、「おまえ」などが一番相応しいとか。

音楽家の福永陽一郎氏が磯部先生にこうおっしゃったそうです。「この曲は日本で初めての合唱の名曲ですね。みんなが集まって斉唱でなく、本当にハーモニーを暗唱していて合唱する曲はこの『遙かな友に』以外にありませんよ」。

その後、磯部先生は、当時の京浜女子大学合唱団の草創の頃の指導者となってくださり、1964年6月27日に鎌倉市中央公民館（現在分館）で開催された第1回の定期演奏会でも、蓑田良子先生と指揮をして下さいました。練習に先生がお出でになって、式台に立たれると、もうそれだけで、団員の顔つきが格段に輝きを増したことをよく覚えております。ご指導は、厳しいものがありましたが、でも魅力的な先生で、いつも私がピアノの伴奏をさせて頂きました。とっても楽しい思い出です。

この歌の誕生記念として、私が主宰する「音楽の森」の仲間たちと「遙かな友に」の思い出を語り合おうということになりました。

今年97になりましたが、最近は独りピアノでこの曲を弾く時があります。今でもこの歌のことを思い出すと、心ときめくものがあります。

（学園主 松本 紀子）

[>前のページへ戻る](#)